

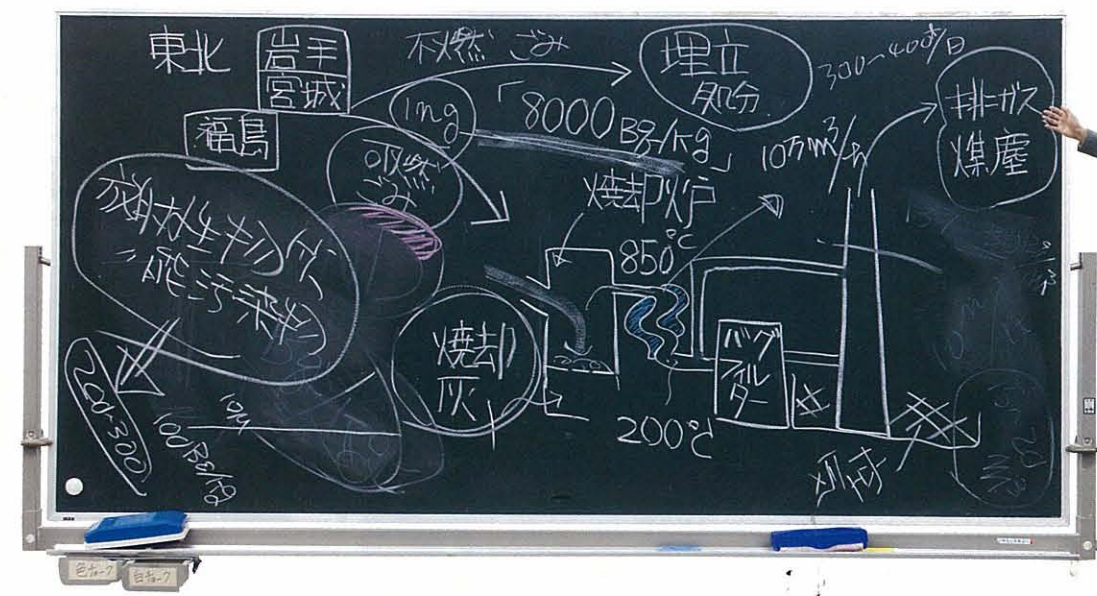
「がれき」

被災地に残る2400万トンのがれき。多くの地方自治体が受け入れの可否で問題になっています。そんな中、今年の1月10日、がれき処理に関する青木泰先生の講演会が静岡市で開催されました。「全国でのがれき焼却は絶対にしてはいけません。」と青木先生。政府の発表によると、放射能は99.9%除去される、というがれき焼却ですが、青木先生はそこに異を唱えています。静岡も他人事ではありません。今回は青木泰先生にがれき問題について教えていただきましょう。

バグフィルターで放射性物質はカットできません!!



環境ジャーナリスト 青木泰
和歌山市出身。東京の時計会社の研究所に勤めていた20年前から自然保護・ごみ環境問題に取り組む。市民活動の現場から情報発信・政策提言を続ける。現在「環境行政フォーラム」などの幹事。著書「プラスチックごみは燃やしてよいのかー温暖化を進めるサーマルサイクル」



知っておきたい放射能情報

■ 放射能汚染はどのくらい深刻?
福島原発で放出された放射性物質の総量は、80京ベクレル。米国のスリーマイル原発事故の1万倍に上る。汚染はセシウム量で言うと広島原爆の168倍、残留影響量は広島長崎の約3000倍といわれる。その場所で生活するだけで、年間1mSvから100mSvを超える放射線量を浴びるエリアは、何百箇所もあり、文部科学省が行った原発周辺100km圏内の調査でも、高濃度汚染地域は避難区域外でも見つかると、チェルノブイリの強制移転の基準を超える場所は、2200箇所の調査点の8%にも及んだ。
参考 朝日新聞 2011.8.30

■ 汚染された茶葉はどうなった?
静岡市の放射能汚染された19トンの茶葉は非公表で8/22~8/25にかけて沼上清掃工場で焼却され、焼却灰は近くの最終処分場に埋め立てられた。国の方針に従ったので、公表の必要はないと判断したという。これだけ不安が広がっている今、事前説明やきめ細やかな公表してほしいものだ。
参考 中日新聞 2011.12.29

■ 早川マップ(右図)
早川由紀夫氏が作成した放射能汚染マップ。「早川マップ 五訂版」でWeb検索すると、放射能汚染のホットスポットを知ることができる。

■ シーベルト(Sv)とベクレル(Bq)
シーベルト(Sv)・・・放射線による人体への影響度合いを表す単位 (mSvはSvの千分の1)
ベクレル(Bq)・・・放射性物質が放射線を出す能力(放射性物質の量)を表す単位



| | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>福島母親が語る 2/11(土)</p> <p>第1部 トーキング 13:30~ 第2部 はるいろパレード 15:45~</p> <p>会場: 静岡労政会館6階ホール 資料代: 300円 問合せ/054-252-7088</p> | <p>継続支援を検討するワークショップ会議</p> <p>支援を息長く続けるために</p> <p>日時: 3/4(日) 13:30~16:00 会場: もくせい会館 第二会議室 問合せ/090-6353-2950 主催 SAVE IWATE!ずおか</p> | <p>もっと色々知りたい方は・・・</p> <p>『ナウシカの世界がやってくる 空気と食べ物の放射能汚染』 著 青木泰</p> <p>定価 1,260円(税込) 1月25日発売!</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

汚染がれきの焼却 青木泰

まず始めに、今話題になっている「がれきの広域処理」について簡単に教えてください。
環境省が6月23日に発表した方針です。岩手・宮城の2県で出た災害廃棄物(以下がれき)を、全国各地で受け入れしてもらい、焼却または埋め立ての処理をお願いするというもの。現地では処理施設が不足しており、「1日も早い復興」のために、専用のHPも立ち上げて推進しています。

福島県のがれきは対象外なのですか?
対象外です。福島のがれきは放射能汚染が著しく、外部への持ち出しが禁止され現地で処理することが決まっています。しかし、早川マップからも分かるように、岩手・宮城にもホットスポット(高濃度汚染地域)があり、がれきについても汚染が少なくないことは周知の事実です。広域処理方針が決まった後に牛肉・稲わら問題で2県の汚染も公になりましたが、環境省が対応を見直すことはありませんでした。

放射能汚染されたがれきが、全国にばら撒かれる危険性があるということですか?
その通りです。環境省は受け入れるがれきの「受け入れ基準」を示していません。愛知県知事からも基準を示すように要望書が出されていますが、このまま受け入れたのでは汚染が拡大します。

広域処理に関する根本的な問題とは?
ここから一番重要なところですね。放射能汚染されたがれきを焼却した場合、放射性物質

は「微細なチリ」と「ガス」の二つに変化します。当然ながらその二つも放射能汚染物質なので、的確に処理しなければなりません。しかし、環境省からは「焼却灰」についての基準(濃縮されても8000ベクレル/kg以下で人体に影響はない)が示されたものの、肝心の排ガスに関しては規制基準も測定方法も示されていません。排ガスになって放出された放射性物質は、全国の空気を汚染する可能性があります。

「焼却炉のバグフィルターで、放射性物質は100%除去できる」と聞きましたが・・・
それは、環境省の発表によるものですが、科学的裏付けはありません。バグフィルターとは、通常の焼却時に発生するダストが外気に飛び散らないよう取り付けられた除去装置。空気を通過し、チリを除去するもので、掃除機のフィルターをイメージしていただければ結構です。これにより、放射性物質を除去できる、という結論づけているのです。しかし、有識者検討会で参考にした資料は「PM2.5」という喘息の原因となる微小粒子がバグフィルターでどれだけ除去できるかという研究論文で、放射性物質の除去に関するものではありませんでした。このような論文を元に、放射性物質が除去できるというのは机上の想定であり、暴論です。バグフィルターはあくまで一般家庭などから出るごみを焼却する際に使われるものであつて、放射性物質を除去できるか否かの判断には、慎重な実証実験が必須なのです。「バグフィルターは防げません。」と関口鉄夫元信州大学教授が語るように、排ガスに至つてはそもそも効果を全く発揮しないのです。

それでも、1日も早い復興のためにはがれきの受け入れが必要なのでは?
これには、次の2点から、やはり受け入れは行わない方がよいと言えます。まず、受け入れのデメリットです。お話ししており、安全性が裏付けされていない状態で受け入れはできません。放射性物質が全国に拡散されます。また、それ程のリスクを負ったとしても処理には5~10年かかると予想されるので、どちらにしても長い年月がかつてしまつたのです。一方で、現地でがれき処分すれば、被災者の半分の12万人が失業するという雇用対策にもなりません。他県が引き受ければ、雇用の機会も奪うこととなります。また、本当に汚染の無いがれきは資源となり、リサイクルも可能ですが、広域処理をしまつとすべて焼却か埋め立てされてしまつたのです。

海外からも報告文が届いています。ドイツ放射能防衛協会は日本の政策に異を唱え、「全国でがれきを燃やすことを直ちにやめるべきだ」と報道発表しました。大阪でもがれき受け入れについて医師の立場からの反対の意見書が出されました。政府はその場しのぎに走るのではなく、国民を守ることを、国民の命を真剣に考えて政策を打ち立てることが必要です。最後になりますが、こうした状況の中で、何か被災地のためにできることはないか、そう考えずにはいられないというのが、私はもとよりみなさんの総意ではないでしょうか。私たちにできることは、がれきの受け入れではなく、ホットスポットに住み続けなければならぬ福島の人々を受け入れる環境をつくることではないかと強く思います。

「焼却炉のバグフィルターで、放射性物質は100%除去できる」と聞きましたが・・・
それは、環境省の発表によるものですが、科学的裏付けはありません。バグフィルターとは、通常の焼却時に発生するダストが外気に飛び散らないよう取り付けられた除去装置。空気を通過し、チリを除去するもので、掃除機のフィルターをイメージしていただければ結構です。これにより、放射性物質を除去できる、という結論づけているのです。しかし、有識者検討会で参考にした資料は「PM2.5」という喘息の原因となる微小粒子がバグフィルターでどれだけ除去できるかという研究論文で、放射性物質の除去に関するものではありませんでした。このような論文を元に、放射性物質が除去できるというのは机上の想定であり、暴論です。バグフィルターはあくまで一般家庭などから出るごみを焼却する際に使われるものであつて、放射性物質を除去できるか否かの判断には、慎重な実証実験が必須なのです。「バグフィルターは防げません。」と関口鉄夫元信州大学教授が語るように、排ガスに至つてはそもそも効果を全く発揮しないのです。

仙台市のがれき撤去大作戦

取材協力: 仙台市環境局震災廃棄物対策室 総括主幹 遠藤守也

目標、50%以上リサイクル!

がれき問題が深刻な中、迅速な対応やその後の的確な段取りにより、現地で処理を円滑に進めている自治体があります。宮城県仙台市。今年度中には撤去が完了、焼却や埋め立て処理も3年以内には全て終了の見通しとのことです。そこで、こうした全体の動きを指揮する「震災廃棄物対策室」の遠藤守也さんに、お話を伺いました。「まずはひたすら現状把握でしたね。仙台市のがれきは、4年分のごみ量にあたる約135万トンあることが分かりました。」と遠藤さん。3月25日、神戸市の震災廃棄物処理担当者を早々に招くと、1ヶ月間に渡り、共に体制を整えていったそうです。「彼らの助言は、神のお告げでした。」の言葉から、阪神淡路大震災の経験がどれほど活かされたかが分かります。助言に基づき、始めは作業者の役割分担(スキーム作り)を徹底。その後、市と民間企業が一体となってがれきを取集・分別・焼却するための「がれき搬入場」

を設計・設置しました。そして、9つの作業部隊を作って撤去を進めました。まずは可燃物・不燃物・資源物(金属、車など)の3種類に分けて搬入場へ運び込み、さらに約10種類に細かく分別。目標は50%以上リサイクルといえます。上記で登場する青木さん曰く、「遠藤さんの強いリーダーシップがあったからこそここまで素晴らしい体制が整ったといえそうです。その他の市町村にとっても、参考になるモデルケースになりそうですね。環境省は各自治体に、3年以内のがれき撤去を要請しています。しかし、仙台市のように地域内だけでは処理できない自治体もあります。がれき量が最も多い石巻市の震災廃棄物担当者は、「がれき量が106年分と推定され、全国での受け入れがないと期限内には処理できません。」と話されました。私たち地方都市にできることは何か、様々な角度から考えていかなければならないと、改めて実感しました。

